



山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

3月号

第62巻 第2号
2017年

無料

Free

も
く
じ

今月の1枚	1ページ
・「遠見尾根から三山を眺望する」	
山博コレクション	2ページ
・切れたナイロンザイルと松濤明の手帳	
動物コラム	3ページ
・カモシカの基礎	
イベントのご案内&博物館のひろば	4ページ
・講演会 セブンスミッター・山田 淳 氏 ～登山界の革命児が語る山の魅力と山岳文化の未来～	
・大町南小学校 校内化石展 ・立川第一中学校1年生 校外学習 ・県内ホテルの冬期日帰りバスツアー	



博物館施設案内
はこちら



2017年1月7日 小遠見山より



2016年10月20日 中遠見山より

遠見尾根から三山を眺望する

西田 均

大町市街地から見える「爺ヶ岳」「鹿島槍ヶ岳」「五龍岳」は通称「三山」と呼ばれます。

白馬三山になぞらえてのことか、三大雪渓、三大急登など比較や並べたりする時に三と言う数が多用されるからなのか定かではありません。また、散見される「仁科三山」という呼称も気にかかります。

多くの市民から親しまれている「爺ヶ岳」、双耳峰が秀麗な「鹿島槍ヶ岳」、丸くどっしりした安定感のある「五龍岳」。

今回の、今月の一枚は大町市街地から見るのとは逆方向となる遠見尾根から見た三山のパノラマ写真です。三山の変容をご覧いただきたいと思います。

見る方向が変わるとどの山なのか判らなくなってしまう。という方もおいでになりますが、それも納得できる一枚ではないでしょうか。

加えて、秋と冬とでの変容の様子も是非ご覧いただければと思います。

鹿島槍北壁も圧巻ですが 五龍岳の堂々とした山容にはあらためて見惚れてしまうのではないのでしょうか。遠くで判りにくいかもかもしれませんが爺ヶ岳の北西壁もヒマラヤ^{ひた}巒をまとい、厳しく美しい表情を見せています。

2014年から鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓学術調査が続けられ、この山域にも何度か足を踏み入れました。

その度に景色はもとより、断片的な植物や鉱物の様子にも多くの感動や好奇心をくすぐられました。

一般登山者が近寄ることを許さないこの山域はわずかな登攀者を迎えるだけで、人工物と言えは遙か上空の飛行機ぐらいしか見えない自然そのままの世界が広がっています。

(市立大町山岳博物館 指導員)

切れたナイロンザイルと松濤明の手帳

— 井上靖の小説『氷壁』の題材となった山岳遭難事故にまつわる2つの資料 — 関 悟志

「山博コレクション」コーナーでは、山岳博物館ご来館の際にぜひご覧いただきたい常設展示物や、普段展示されていない、とっておきの収蔵品の数々をご紹介します。

今回は、1階展示室「山と人」で、現在展示している2点の登山史関係資料、「切れたナイロンザイル」と「松濤明の手帳」をご紹介します。いずれも北アルプスでの山岳遭難事故にまつわる資料です。

■ときどき寄せられる質問

来館者から、「ここに『氷壁』のモデルになったナイロンザイルが展示されているって聞いたんだけど、どこにあるの?」という質問がときどき寄せられます。なかには、「そのザイルを見るためにわざわざ来たんだよ」とおっしゃる方もいます。

ここで言う『氷壁』とは、芥川賞作家で文化功労者・文化勲章を受章した井上靖が執筆した長編小説のことです。この小説は、1956（昭和31）年から翌年まで270回にわたり朝日新聞に連載され、山岳を舞台にした恋愛小説の世界に、登山愛好者以外の読者も引き込まれました。連載終了の年には単行本が発行され、さらに、その翌年には映画が公開されています。

この小説や映画は、「戦後登山ブーム」といわれる当時の登山人気の一因となりました。こうしたことから、先述のような質問をされる来館者は中高年の方がほとんどです。

■小説『氷壁』のあらすじ

ここで、簡単に『氷壁』のあらすじをご紹介します。

冬の岩壁登攀に挑んだ主人公と親友のザイルパートナーでしたが、切れるはずのないとされたナイロンザイルが切れて、行動を共にした親友は墜死してしまいます。ザイルの操作ミスや故意によるザイル切断、さらには自殺説などさまざまな憶測と闘いながら遭難の真相をつきとめようとする主人公は、親友の恋人であった既婚女性への想いを胸に、単独行へ向かいます。しかし、岩場で落石に遭って致命的な傷を負い、ノートに手記を残して最期を迎えます。山という雄大な自然と都会の雑踏との対比を交え、友情と恋愛の葛藤にゆれる登場人物たちの織りなす人間模様がドラマチックに展開していく物語です。作品としての小説『氷壁』はあくまでフィクションで、創作上の物語ですが、作者の井上は現実起こった次のような山岳遭難事故に取材して小説を書きました。

■岩稜会のナイロンザイル切断による滑落遭難

1955（昭和30）年1月、三重県の社会人山岳会「岩稜会」の3人パーティが前穂高岳東面の岩場を登攀中、ザイルのトップに立っていた若山五朗が滑落しました。若山は後続のメンバーとお互いの体をザイルで結んでいたため、ザイルにぶら下がって止まるはずでした。しかし、岩角に掛かっていたザイルは切断し、墜死してしまいました。

この遭難は単に滑落による山岳遭難事故として終息するのではなく、当時、麻ザイルにかわって普及しはじめていたナイロンザイルの性能にまつわる論争へ発展し、やがて「ナイロンザイル事件」と呼ばれるようになります。その後、1975（昭和50）年に国内で登山用ザイルの安全基準が制定された後、岩稜会は20年にわたる事件の経過を発表し、ナイロンザイル事件に終止符が打たれたのでした。

展示中の切れたナイロンザイルは、事故当時、墜死した若山の体に結ばれていたものです。オレンジ色の三ツ撚りザイルがほどけて白い繊維があらわになった切断面は生々しく、遭難の真実を今に伝えています。



切れたナイロンザイル（長362.0cm×径8mm）

■クライマー・松濤明 — 槍ヶ岳北鎌尾根での遭難 —

小説『氷壁』では、物語の場面や登場人物の設定に関して、実は、もうひとつ別の山岳遭難事故から題材を得ていました。それは1949（昭和24）年1月に起きた松濤明と有元克己が凍死した槍ヶ岳北鎌尾根での遭難です。松濤は戦前から、厳しい岩壁登攀や単独での積雪期縦走などを重ねた先鋭のクライマーでした。小説の中の主人公には、こうしたクライマーとしての松濤の人物像などが反映されているといわれています。

1948（昭和23）年12月、東京の社会人山岳会「東京登歩溪流会（後に登歩溪流会）」に所属していた松濤と有元は、槍ヶ岳北鎌尾根をアプローチとして槍ヶ岳から穂高連峰、さらに焼岳までの縦走を計画して高瀬川上流の湯俣を出発しました。しかし、時期はずれの豪雨と猛風雪などによって山行は困難を極め、雪洞を掘ってビバーク（露営）して前進を続けますが、翌年1月に入り、やがてふたりは北鎌尾根で遭難します。

雪がとけた7月、ふたりは遺体となって発見され、近くの岩陰からは防水紙の袋に包まれたカメラと手帳が見つかりました。手帳には松濤が記した遭難にいたるまでの詳細な山行記録と、ふたりが低体温症による凍死の直前まで綴った手記が残されていました。手記には、ふたりが遭難して死を決した後、家族や知人へあてた遺書が記され、そのなかで松濤は次の一節を残しています。

「我々が死んで 死ガイハ水ニトケ、ヤガテ海ニ入り、魚ヲ肥ヤシ、又人ノ身体ヲ作ル 個人ハカリノ姿 グルグルマワル 松ナミ」

展示中の手帳は手のひらに収まるほどの小さなものですが、そこに鉛筆で刻まれた文字は見る者の心に迫ってきます。

松濤明の手帳
（長11.1cm×幅6.0cm×厚8mm）

今回ご紹介した資料は、遭難された方のご家族などから、当館へ寄贈されたものです。日本登山史の1ページを物語る貴重な品々であるとともに、山岳遭難事故の事実を伝え、その防止をうったえかける実物でもあります。

これらは、いずれも1階「先鋭的な登山への挑戦」コーナーで常設展示中です。ぜひご覧ください。【文中、敬称略】

（市立大町山岳博物館 学芸員）

動物 コラム

カモシカの基礎生物学

佐藤 真

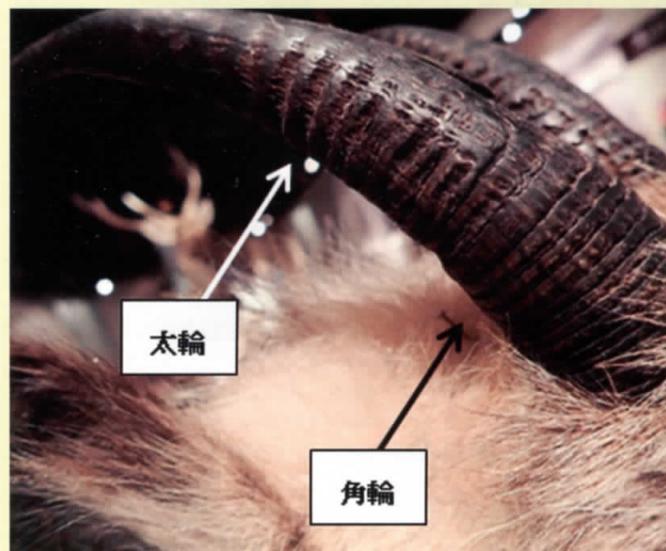
山岳博物館では1956年からニホンカモシカ（以下、カモシカ）の飼育を行っています。里山から高山帯まで広く生息するカモシカですが、皆さんはその生活や行動をどれくらい知っていますか？ここではカモシカの基本的な情報について紹介したいと思います。

分類と日本への移入いつ日本にやってきたのか？

カモシカはウシ科ヤギ亜科カモシカ属に属しています。ニホンジカではなくウシやヤギのグループに入り、近縁な仲間として、タイリクカモシカ（同属）やヒマラヤゴール（ゴール属）などがいます。日本の固有種であるカモシカが日本にいつ頃やってきたか、諸説ありますが、現在見つかった化石から、少なくともカモシカの祖先が9万年以上も前に日本列島にやってきたことが分かっています。

体のつくりと年齢、寿命は？

カモシカは約30kg～45kgの重さで、その成長は3歳頃までに止まることが分かっています。角は成長を続けますが、代謝が落ちる冬に成長が鈍くなり、角に細い溝ができます。これを角輪といいます。1本目の角輪は1.5歳の時にできるため、角輪を数え、1足すことで年齢となります。カモシカは年齢の鯖を読むことはできないということです。



【写真】カモシカの角。細い溝（角の根本）と太い溝（角の中央）があります。太い溝も数えてしまうと年齢を過大に推定してしまいます。

平均寿命は岐阜・長野の野生個体において約6歳、最長寿がメスの25歳という記録があります。過去に付属園で飼育していた個体の最長寿は約26歳でした。動物園で飼育されているカモシカにも少子高齢化問題が出ており、今後の繁殖や野生下からの導入が必要となっています。

カモシカの体色は地域差や個体差が大きく、褐色や灰褐色の個体が多くいる一方で、黒色や白色が強い個体が観察されています。また、夏と冬で換羽を行い、気温変化に対応しています。



【写真】冬のカモシカ（ハクバ）。大町の寒さでも冬毛をまとうことで、対応しています。

生活と食餌

基本的になわばりを持ち単独で生活をするカモシカですが、繁殖期になると夫婦ペアを形成し、なわばりを共有します。繁殖期は9月～11月と言われ、5月頃に子が生まれます。妊娠期間は約210日～215日です。生まれた子は生後1年間、母親とともに行動します。父親は子から離れることが多く、子育てに参加することはありません（ライチョウと同じですね）。

子は5～7ヶ月で離乳し、離乳後は親と同じものを食べ始めます。例えば、北アルプス周辺の個体では、夏にオオカメノキやウリハダカエデなど、冬にはササ類やスゲ類などを食べて生活しています。一方で、付属園のカモシカたちは牧草、ペレット、キャベツ、リンゴ、サツマイモなどを食べながら、のんびりと暮らしています。

食べれば糞をするのが自然の摂理で、カモシカは粒状の糞をナワバリ内の1～数箇所に排泄します。糞を残すことでなわばりを他の個体に知らせる、という可能性も考えられますが、カモシカでは実証されていません。なわばりの防衛には目の下にある眼下腺の分泌物が重要で、分泌物は甘酸っぱい匂いがし、少し粘り気があります。これを樹の幹などにこすり付けることで、他の個体へのけん制を行っていると考えられています。

ここまでの内容、皆さんどのくらい知っていましたか？すべて知っていた方は、カモシカ博士になれるかもしれません。

鳥インフルエンザへの感染予防と工事のため休園していた付属園ですが、3月1日から再開する予定です。付属園で飼育しているカモシカに会いに来ていただき、体の構造やどんな行動をするかぜひ観察してみてください。もしかすると新たな発見があるかもしれません。（市立大町山岳博物館 学芸員）

【参考文献】

落合啓二（2016）ニホンカモシカ—行動と生態。東京大学出版会。
小宮輝之（2016）くらべてわかる哺乳類。山と溪谷社。
市立大町山岳博物館編（1991）カモシカ—氷河を生きた動物。
千葉彬司、山口佳秀（1975）北アルプス・高瀬川流域におけるニホンカモシカの食性について。神奈川県立博物館研究報告（自然科学）8：21-36。

イベントのご案内

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の65歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
(入場の際、受付にてお名前等をご記入ください)

市立大町山岳博物館・大町山岳博物館友の会 共催事業 大町市「山岳文化都市宣言」15周年記念／大町登山案内人組合創立100周年記念 平成29年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会 「セブンサミッター・山田 淳 氏 講演 ～登山界の革命児が語る山の魅力と山岳文化の未来～」

セブンサミッター(七大陸最高峰登頂者)の山田淳さんを講師にお招きしての講演会を開催します。学生時代の旅やワンゲルから高所登山への歩み、七大陸最高峰登頂の世界最年少記録の更新、国内外での山岳ガイド経験、登山用品レンタル事業の起業、登山人口増と安全登山推進への取り組みなどを含め、ご自身の山への想いや山の魅力について語っていただきます。

さらに、信州で盛んな学校登山や高校山岳部の活動が持つ可能性など、山の未来を担う青少年へのメッセージを含め、日本における山岳文化・登山文化のこれからの在り方についてもお話しいたします。

- 日 時 4月16日(日) 午後1時30分～3時15分
- 場 所 市立大町山岳博物館 講堂
- 対象・定員 どなたでも・先着50人
- 費 用 無料
- 申し込み 4月14日(金)までに、参加希望者の氏名・住所・電話番号をFAX・Eメールまたは直接、山岳博物館へ
(FAX:21-2133、Eメール:sanpaku@city.omachi.nagano.jp)



博物館のひろば

大町南小学校 校内化石展
平成29年1月18日～19日



大町南小学校で化石展が開催され、生徒のみなさんには、化石に触れ、メモやスケッチをとりながらの楽しい学習となりました。

企画・準備されたのは、理科専科の先生です。ご自身が県内や日本各地で採集された多数の標本を中心に、南小学校の保管標本や山岳博物館の所蔵標本(5点)が、図入室いっぱい展示されました。

どこにすんでいたの? 何年前? どうやって化石になったの? 南小の近くで化石がとれるところは? たくさんの質問をいただきました。

山岳博物館には貸出可能な標本がたくさんあります。ご相談・ご活用いただければ幸いです。

立川第一中学校1年生 校外学習
平成29年1月11日・12日



大町市の姉妹都市でもある立川市から立川第一中学校1年生が大町市にスキー教室で訪れ、スキー場からの帰途、当館を訪れ見学学習を行いました。

生徒124人と引率の先生7人は、初日夕方、2日目夕方の2班に分かれ館内を見学しました。

さすが体力の有り余る? 中学生、スキー教室の後にもかかわらず約1時間館内をしっかりと見学されていました。

このような中から、自然に関心を持ってくれる人が誕生することを期待したいものです。

県内ホテルの
冬期日帰りバスツアー



県内の或るホテルでは、長期滞在のお客様を対象とした冬期日帰りバスツアー先として当館を定期的に利用されています。

博物館では、来館された方々に知的満足をしていただけるよう学芸員を説明員として配置し、冬期間は土日・祝日営業のミュージアム カフェ・ショップ「もるげん・ろーと」でも臨時オープンをしてお茶やお土産の要望に添えるようにしています。

観覧者は、中高年のご夫婦が多く当市にゆかりの「黒部の太陽」の話題に映画を観たワ!の声や、昨年末の二ホンライチョウのことを心配して下さる声が聴かれました。

着地型観光が言われますが、閑散期ならでは可能な博物館活用方法の一つと言えます。

編集・発行



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館 編集責任者 鳥羽章人
TEL.0261-22-0211 FAX.0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

3月号

第62巻 第2号
2017年

発行日 2017(平成29)年2月25日

印刷 有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010